

ジョンソン・エンド・ジョンソンが2019年12月10日、経済および消費者方針に関する小委員会、監督および改革に関する委員会、米国下院の聴聞会に対応

2019年12月10日に、監督と改革に関する委員会の経済および消費者ポリシーに関する下院小委員会は、「タルクの発ガン性物質とアスベスト検出の最良の方法の調査」に関する聴聞会を開催しました。公聴会での質問と声明に照らして、ジョンソン・エンド・ジョンソンはこの情報を一般に提供しています。

ジョンソン・エンド・ジョンソンはそのコスメティック・タルクの安全性をどのようにして確保するのでしょうか？

ジョンソン・エンド・ジョンソンは、使用できる最も感度の高い技術としてFDAが最近挙げている、業界をリードする検査方法を使用しています。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、製品で使用されているコスメティック・タルクがアスベストで汚染されていないことを確認するため、プロセスのすべての段階で注意を払っています。疑惑が最初に生じた時点で、多くの独立機関、研究所、大学にタルクの検査を依頼しました。これらの機関には、米国FDA、ハーバード・パブリックスクール・オブ・パブリック・ヘルス、MIT、Mt. Sinai Hospital、McCrone Associates、Cardiff Universityなどがあり、これらの検査により、ジョンソン・エンド・ジョンソンのコスメティック・タルク製品にはアスベストが含まれていないことが確認されました。

ウィリアム・ロンゴ博士が公聴会で証言しました。ロンゴ博士とは誰ですか？

ロンゴ博士は、原告弁護士側の有給の訴訟証人です。ロンゴ博士の研究室は、アスベスト訴訟の原告側の証言を行うことで数千万ドルを得ています。ロンゴ博士が裁判所にいる時間の約95%は、原告側に立って行われます。しかし、すべての裁判所が彼の証言に好意的に反応したわけではありません。一部の裁判所は、ロンゴ博士の方法は「ジャンクサイエンス」で、彼の研究は「せいぜい擬似科学」であり、彼の証言は「不誠実で、信用できず、信頼できる科学者コミュニティによって支持されるものではない」と述べています。

ジョンソン・エンド・ジョンソンに対する証言を開始する前に、ロンゴ博士は、コスメティック・タルクのアスベストの問題に「非常に精通している」こと、また、コスメティック・タルクにアスベストが存在することは「都市伝説」であることを宣誓しました。言い換えれば、人々が語る都市伝説は真実ではありません。彼は、コスメティック・タルクからアスベストが検出されなかったことを繰り返し証明しました。別のケースでは、彼は次のように述べています。「私たちは調べましたが、それは見つかりませんでした。」つい2010年に、ロンゴ博士は、ニューヨーク以外の場所から調達したタルクが「クリーン」であると証言しました。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、ニューヨークからコスメティック・タルクを調達したことはありません。現在、ジョンソン・エンド・ジョンソンに対する証言について金銭が支払われた場合にのみ、ロンゴ博士はそのタルクがアスベストで汚染されていたことを述べています。

ロンゴ博士は、アスベストを検査するための重液分離方法について語っていますが、これは新しい技術ですか？

いいえ。ロンゴ博士の証言である重液分離調製方法の焦点は、人の注意をそらすものです。この方法は新しいものでもなく、秘密でもありません。この技術は、科学コミュニティにおいて何十年も前から知られています。1970年代までは、FDAの科学者を含む独立した専門家は、最も一般的なアスベストのタイプのであるクリソタイルを検出できないという信頼性の低さと欠点があることから、この手法を拒否していました。実際、*ロンゴ博士の重液分離技術を採用している規制当局は世界のどこにもありません。*

ロンゴ博士は、重液分離方法なしでは、タルク中のアスベストを定期的に検出することができないと述べました。間違いありませんか？

いいえ、間違っています。ジョンソン・エンド・ジョンソンの専門家であるマシュー・サンチェス博士は、ロンゴ博士が見るものと同じものを見ることができます。サンチェス博士は、ジョンソンのベビーパウダーの*同じボトル*で、重液分離を使用せずに角閃石鉱物粒子を発見しました。彼らは同じものを見ることができるにもかかわらず、サンチェス博士はそれらの鉱物粒子がアスベストではないことを示しました。これらは、特定の鉱物の非常に一般的なアスベスト型の種類です。感度は問題では*ありません*。問題は、検出された内容を正確に特徴付けることです。

ロンゴ博士は、公聴会で、彼が検査したジョンソン・エンド・ジョンソンのコスメティック・タルクのボトルの65%がアスベストに陽性であると主張しました。彼は、発見した鉱物粒子の特徴付けを誤っています。ロンゴ博士は、「検査を実施している分析者の1人が、アスベストではなく、特定のサイズと形状（すなわちアスベストではない）の角閃石開裂断片を見つけた場合」、「分析者はそれをアスベスト構造とみなす」と証言しました。

ジャクリーン・モリーン博士が公聴会で証言しました。ジャクリーン・モリーン博士とは誰ですか？

モリーン博士は、原告弁護士側の有給の訴訟証人です。彼女の証言は、ジョンソン・エンド・ジョンソンに対して証言を開始してから変わりました。ジョンソン・エンド・ジョンソンに対する証言に対して報酬が支払われる前は、モリーン博士は、大量のタルクに曝露されたタルク鉱作業員と製粉業者の研究では、作業員と製粉業者が中皮腫を含むアスベスト関連疾患にかかるリスクが高いことは見出されなかったことを認識していました。これらの研究は、ジョンソン・エンド・ジョンソンにタルクを供給した鉱山を含めて、それらの鉱山にはアスベストが含まれていないことが示されました。けれども今になって、ジョンソン・エンド・ジョンソンに対して証言した際、モリーン博士はこれらの研究は不十分であったと述べています。

モリーン博士は、アスベスト形態鉱物と非アスベスト形態鉱物の間に健康上の違いはないと述べました。間違いありませんか？

いいえ、間違っています。多くの信頼のおける科学者は、微量の非アスベスト形態鉱物は健康上のリスクをもたらさないと結論付けています。

- OSHAは、職場の安全を確保する責任を負う米国政府機関です。OSHAは1992年に、「[それらは]アスベストと同じタイプまたは健康への影響度を示す」と結論付ける実質的なエビデンスが欠けているため、アスベスト規制には非アスベスト形態角閃石が除外されることを発表しました。
- 米国地質調査所(「USGS」)は、「健康上のリスクに関しては」、「角閃石がアスベスト形態であるかどうか」という問題であり、「入手可能なエビデンスによれば、非アスベスト形態物質の切断断片への曝露がアスベスト関連疾患を発症する重大なリスクを生じさせる可能性が低いという結論を支持するものである」と述べています。
- NIOSH(OSHAの科学および研究部門)も同様に、「非アスベスト形態鉱物は、『アスベスト』でも『アスベスト形態鉱物』でもない」と宣言しており、「アスベスト形態鉱物の繊維への曝露」のみが疫学研究において健康への悪影響に確実に関連しているとしています。

ロッド・メトカーフ博士が公聴会で証言しました。ロッド・メトカーフ博士とは誰ですか？

メトカーフ博士は、原告弁護士側の有給の訴訟証人です。地質学の一般的な経歴を持っていますが、彼の証言はジョンソン・エンド・ジョンソンのタルクに特に関連していませんでした。

メトカーフ博士は、タルクにアスベストが含まれているかどうかについて何と書いていましたか？

メトカーフ博士は、「タルクを完全に無アスベストにすることはできない」という提案に同意しませんでした。また、タルクの堆積物にはアスベストが含まれないことを認めていますが、ジョンソン・エンド・ジョンソンが過去に実際に使用した鉱山や現在使用している鉱山に関する具体的な情報は提供していません。

独立した立場の科学者および組織は、J&Jが使用する鉱山については何と書いていますか？

多くの独立した立場の科学者や組織は、バーモント州とイタリアで使用されているジョンソン・エンド・ジョンソンの鉱山にはアスベストが含まれていないと結論付けています。例えば：

- NIOSHとハーバード大学公衆衛生学部は、ジョンソン・エンド・ジョンソンのバーモント・タルク鉱山を評価し、「岩石顕微鏡分析、透過型電子顕微鏡検査、ステップスキャンによるX線回折を含むNIOSHによる分析では、これらのサンプルにアスベストは認められなかった」と結論付けました。また、「1900年代初頭からの研究は、バーモント・タルク鉱床にアスベストが含まれていないことを示している」とも確認しました。
- 米国産業衛生専門家会議(American Conference of Governmental Industrial Hygienists: ACGIH)は、ジョンソン・エンド・ジョンソンのバーモントおよびイタリアのタルク鉱山にアスベストが存在しなかったと述べました。
- 国際がん研究機関(International Agency for Research on Cancer:IARC)は、「米国で現在化粧品に使用されているタルクのタイプには、アスベストを含む検出可能な水準の角閃石は含まれていない」と結論付けました。

一部の証人は、ジョンソン・エンド・ジョンソンの内部文書がアスベストに関して検査結果が陽性であったことを示していると示唆しています。彼らは何について言及したのですか？

原告の証人は、ジョンソン・エンド・ジョンソンの内部文書の内容を日常的に悪用し、不正確に伝えています。アスベストではない非アスベスト角閃石鉱物を検出する検査結果が引用されている場合があります。ジョンソン・エンド・ジョンソンのコスメティック・タルク製品に使用されたことがないソースから得られた検査結果が引用される場合もあります。その他、検査手順を評価するために、アスベストを意図的に添加したサンプルを含む文書が引用される場合もあります。また、アスベストを発見することを意図しているが、その後不正確であることが証明された文書が引用された場合もあります。

ジョンソン・エンド・ジョンソンCEOのアレックス・ゴルスキー氏が証言していない理由は何ですか？

ゴルスキーはジョンソン・エンド・ジョンソンのCEOであり、その役割として、60カ国で264の事業運営の広範な監督を担っています。多国籍企業のリーダーとして期待されるゴルスキーは、コスメティック・タルク製品に関する日常的な意思決定プロセスに関与していないため、必要に応じてその情報を得るために他の者に依頼しています。このような専門的かつ複雑な問題では、タルクを検査する最善の方法について、同氏は科学者やその他の主題専門家の専門知識を頼りにしています。

この公聴会は、非常に技術的で科学的なものでした。例えば、地質学者は、原岩の熱水変質、交代作用、炭酸塩原石など、地質学的な高度に専門化された用語と概念について証言しました。

ジョンソン・エンド・ジョンソンは公聴会に焦点を合わせ、さらに2人のより適切な証人を公聴会に出席させることを申し出ました。それがマシュー・サンチェス博士とキャスリーン・ウィドマーです。サンチェス博士は、科学学士号、科学修士号、および地質学で博士号を取得しています。そして同博士はジョンソンのベビーパウダーの検査に深い経験を有しており、サンチェス博士の会社は10年以上にわたってジョンソン・エンド・ジョンソンのタルクを検査してきました。キャスリーン・ウィドマーは、ジョンソンのベビーパウダーを含む北米の消費者製品を直接責任を負う上級管理職者です。小委員会は両証人を拒否しました。

ジョンソン・エンド・ジョンソンは議会に協力していますか？

はい。ほぼ1年間、ジョンソン・エンド・ジョンソンは、ブリーフィング、書面による提出、文書を提供し、化粧品の安全性に関する小委員会と協力してきました。今年の初め、ジョンソン・エンド・ジョンソンは小委員会のアスベスト、アスベストの検査方法、検査結果、販売数量、マーケティング資料などの幅広いトピックに関する文書および情報の要求に応じて、約10,000ページの資料を提供しました。またジョンソン・エンド・ジョンソンは、タルクの検査に関連する300,000ページ以上の資料を提供しています。ジョンソン・エンド・ジョンソンは現在、公聴会後に小委員会の追加要請に対応しており、小委員会に追加の文書や資料を作成する予定です。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、これらの重要な公共政策の問題に対処するために、議会のすべてのメンバーと協力することを約束します。

ジョンソン・エンド・ジョンソンはFDAに協力していますか？

はい。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、FDAと建設的かつ協力的に働いており、それを継続しています。2019年10月16日、ジョンソン・エンド・ジョンソンはFDAから、ジョンソンのベビーパウダーのボトル1本で初めてアスベストが検出されたとの通知を受けました。2019年9月も含め、同じ期間にわたるFDA自身による調査結果を含めたジョンソン・エンド・ジョンソンのコスメティック・タルクにアスベストが含まれていないことを確認した過去40年間の数千の検査とは対照的に、この唯一の発見は際立っていました。それにもかかわらず、ジョンソン・エンド・ジョンソンは、十分な注意を払い、問題のロットについて自発的にリコールをしました。

並行して、直ちに問題に対する厳密で徹底的な調査を開始しました。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、ジョンソン・ベビーパウダーのリコール済みロットの多数の検査を迅速化するため、2か所の第三者検査機関と契約をしました。調査の過程において、FDAが使用した検査室で検査した同じボトルのサンプルに対して4つの異なる試験方法を使用して、2か所の検査機関での試験、ジョンソンのベビーパウダーのリコールロット、リコールロットの前に製造された3ロット、リコールロットの後に製造された3ロットなど、合計155の検査が実施されました。すべての結果は、ジョンソン・エンド・ジョンソンのタルクにアスベストが存在しないことを確認するものでした。

ジョンソン・エンド・ジョンソンは、2,100ページ以上の徹底した調査をFDAと共有し、FDAの所見につながる可能性のある内部および外部の原因を具体的に列挙しています。これらの問題には、例えば、FDAが採用した臨床検査室のレポートの時系列の不一致が含まれており、サンプルの調製中に二次汚染が発生したことが示唆されています。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、FDAと協力して、これらの不一致の原因究明に取り組んでいます。

[サポート文書にアクセスするには、ここをクリックしてください。](#)